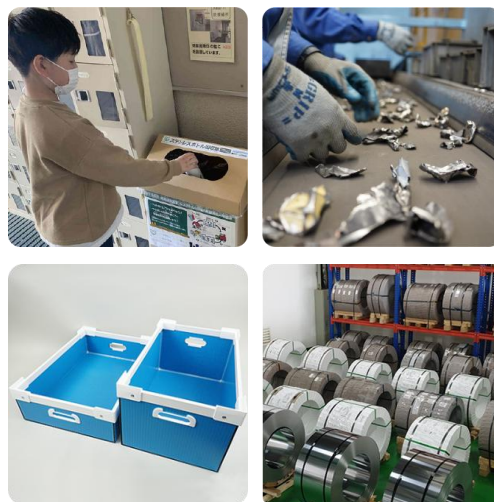


官民ステークホルダーとともにステンレス製ボトルの資源循環の仕組みを構築

家庭で不要になったステンレス製ボトルを様々な場所で回収し、ステンレス材や樹脂を様々な形で再活用する再資源化モデルを構築する。消費・使い捨てではなく再資源化することで、環境負荷低減と持続可能な経済成長を両立させるサーキュラーエコノミー（循環型経済）の実現を目指す。



* 回収されたステンレス製ボトルからはステンレス原料と PP（ポリプロピレン）樹脂原料が取り出され、ステンレス原料はステンレスメーカーへ引き渡され新たなステンレス材に、せんからはPP（ポリプロピレン）樹脂原料が樹脂製品メーカーへ引き渡され樹脂製品（当社工場で使用する樹脂製ボックス）などに生まれ変わる。

背景・きっかけ

* 新商品を作りスペックを訴求するだけでは競合他社との差別化が難しい時代の中、自社が約 100 年の歴史で大事にしてきたことを伝え、共感してもらいたいという思いで、2020 年にサステナブルアクションを含む 4 つの約束（「NO・紛争鉱物」「NO・フッ素コート」「NO・丸投げ生産」「NO・プラスチックごみ」）を公表。いかに自分ごとに出てくるかが課題と捉え、ユーザーとできる具体的なアクションを考えた結果、ステンレス製ボトルの循環システムの取組に至った。

タイガーボトルの 4 つの約束。

NO・紛争鉱物
NO・フッ素コート
NO・丸投げ生産
NO・プラスチックごみ

未来を水筒につめて
#タイガーボトル



取組のポイント

▶ステークホルダーを巻き込んで循環のスキームを構築し、自治体を巻き込んで循環の輪を広げる

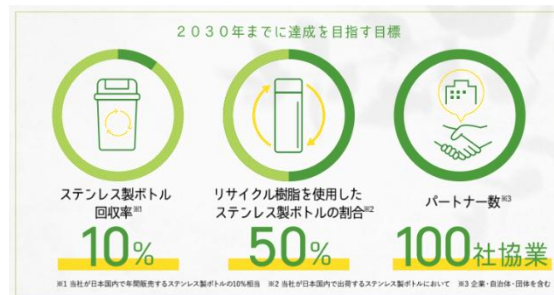
- * 一から資源循環のスキーム構築の必要があったが、取引先の樹脂関連メーカーからの紹介で技術力の高いリサイクラーと検討を進める中、シンプルなステンレス製ボトルならリサイクルを回せる可能性が具体化。リサイクラーの設備をステンレス製ボトルのリサイクルに最適化するため、共同で粉砕・選別の基本工程からともに技術開発を進めてきた。
- * ユーザーを巻き込んだ仕組み構築のため、サステナブルなアクションに注力する京都府亀岡市と連携協定を締結。亀岡市及び市内小中学校 26 校、さらには自社において、メーカーを問わずボトルを受け入れる回収ボックスを設置。
- * リサイクルされた資源は自社以外にも広く流通するが、一部は自社で使う樹脂製ボックスとして戻ってくることで、社員もリサイクルに興味を持ち、資源循環を自分ごと化する効果を実感している。

今後の展望

▶様々なパートナーを増やししながら、最終的に自社のステンレス製ボトルへの循環を目指す

- * プロジェクト開始から約 3 年間でステンレス製ボトル回収数約 93,400 本分、回収ボックス設置も 459 か所に増え、取り組みを拡大。2030 年までに【使用済みステンレス製ボトルの回収率 10%】【リサイクル樹脂を使用したステンレス製ボトルの割合 50%】【パートナー100 社（企業・自治体・団体含む）との協業】を目標に、技術・コスト・規制など様々な課題に向き合いながら資源循環の取組を進める。

	2022実績	2023実績	2024実績 ※毎年10月31日時点実績
ステンレス製 ボトル回収本数 (累計)	約7,500本分相当 (約2,420kg)	約31,500本分相当 (約10,090kg)	約93,400本分相当 (約29,900kg)
パートナー数	9社	13社	28社 ※企業・自治体・団体を含む
回収ボックス 設置数	全国 113 か所	全国 434 か所	全国 459 か所



参考ページ

タイガー魔法瓶 H P (<https://www.tiger-corporation.com/ja/jpn/feature/sdgs/>)

企業概要

タイガー魔法瓶株式会社

所在地 大阪府門真市速見町 3 番 1 号

資本金 8000 万円

事業内容 真空断熱ボトル・調理電気製品等の製造
販売